



しようと思ったのが今の会社。人材コーディネーターとして入社し、いつの間にか営業職になつた。「今ならペン1本について1時間でも話せます（笑）」といつほど、話題が豊富な久保さんが、当時は人前で話をするのが苦手で、おとなしいタイプだったという。慣れない営業活動で、眩暈や自律神経に不調をきたすようになり、とうとう退職を申し出た。すると、当時の社長から「僕も胃潰瘍なんや。もうちょっと一緒に頑張ってみようや」と言われた。実は社長も経理出身で、久保さんと同じくみんなで協力して成果を出す、みんなで喜ぶ、それがまた数字になつて循環して成功していく営

業つて面白いなと思うようになつた。「長いヒストリーでした（笑）」と久保さんは振り返る。

女性が活躍する時代の職場づくり

「出産で休むとき、上司から絶対帰つてきてねつて言われるように普段から頑張つておくこと」と若い社員にずっと言い続けてきた。「必要とされる人になつておく」と、産休・育休後も職場復帰やすいし、周りの雰囲気が違う。あとは、「ご自身の覚悟」。仕事と家庭、やるど決めたからには責任をもつてやる。そして仕事と家庭の両立は男性も同じ。夫婦の協力体制を作っていくことも大切だと語る。久保さんの会社では、年に1回「知恵の輪活動」という業務改

善の発表会があつたり、復帰女性が多い職場では、特に仕事の見え化に取り組んでいる。みんなが仕事内容や仕事量を把握することで、自然とムダを省いた仕事が出来、仕事と家庭を両立しやすくなのだという。

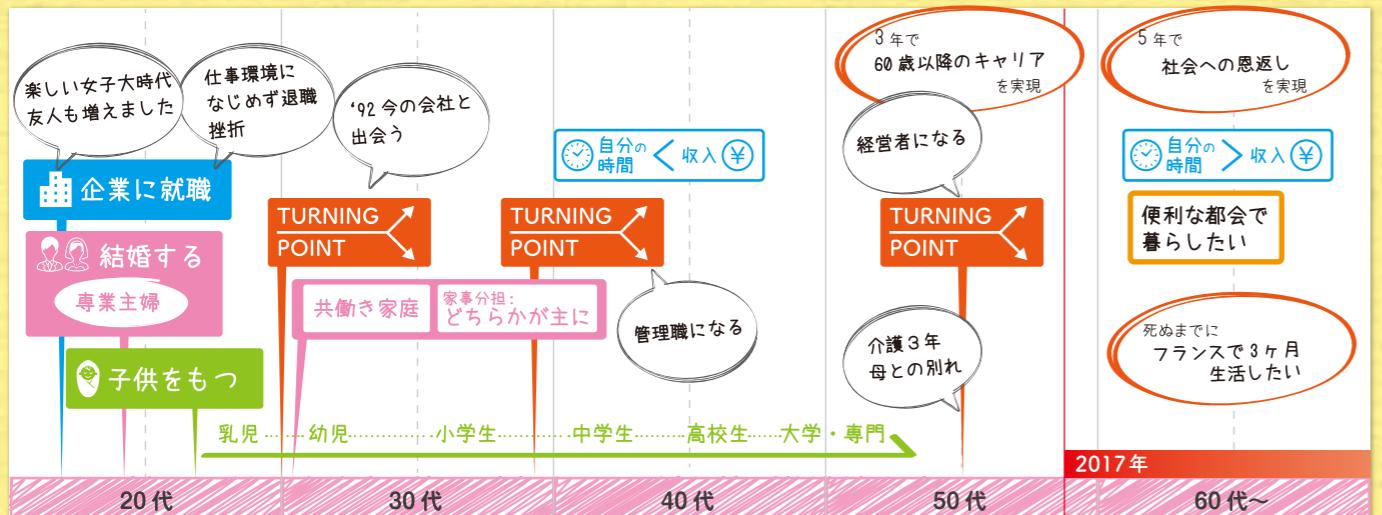
仕事のビジョンと引退後の夢

「働くことを創造し、働くひとを幸せにする会社。わたしたち、オムロンパーソネルのありたい姿に向かって、次世代を担う方々の育成と就業支援を通じて社会に貢献していきたい」と話す。そして引退後は、時間に余裕ができるたらフランスに長期滞在したいという夢を持つ。「3ヶ月くらいパリのアパートメントで暮らしたいんで、スープーに通つて、料理を作つたり、生活してみたい。ユトリロが描いたフランスの街並みが好きなんですよ」と笑う。

心を開いて自分の可能性を広げる

「今の学生はある意味、自己分析に縛られて可能性を狭めてしまつていてるように感じます。自分に制約をかけずに、ちょっととやつてみると、心を開いて一步踏み出す勇気を持つてほしいと思います」と若者世代へのアドバイスを語った。

私の人生年表



Q 今まで大切にしてきたことは?

- ワークとライフで出会った「縁」

Q 今できることは?

- 自分が直面している事、決断し行動をおこし責任をもつ

仕事を通じて変われる。自分の可能性を狭めず、人生を広げて!

オムロンパーソネル株式会社 代表取締役社長
くぼ まさこ
久保 雅子さん 1959年 大阪府出身

京都女子大学文学部史学科卒業、新卒で大手住宅メーカーに入社。社内結婚を機に退職し育児に専念していたが、夫の起業をきっかけに再就職活動を開始。アルバイト等でスキルアップを重ね、1992年オムロンパーソネルで正社員に。人材派遣業界でまったく未経験の営業から、2015年4月、オムロングループの国内関係会社で初の女性社長となる。現在は、自らが経験してきた女性の再就職や社会問題となっている若者の未就業問題など社会の人的課題の解決に取り組む。

歴史が好きな父親の影響で、史料科を選び京都で大学時代を過ごした。その後ハウスメーカーに就職したが、すぐに社内結婚をして専業主婦に。27歳で出産した。家事や子育ての生活の中で、「もう一度社会に戻つて何か自分で実現したい」という思いが強くなり、夫の起業をきっかけに再び就職活動を開始した。しかし、履歴書を送つても、キャリアがない、スキルがない、小さな子どもがいるということで、直接のチャンスすらもらえない。不採用続きで「自分を否定された気持ちになり、落ち込むことの連続でしたよ」と當時を振り返る。ようやく近所の町工場で事務員として働き始めた。「履歴書に書き加えられる何かを学ばなければいけない!」との思いから、ワープロを早く打てるよう自分でトレーニングした。その後、百貨店の人事部に勤める友人の紹介で、派遣会社を通じて総務の仕事をに就いた。

転機となつた再就職

「派遣会社があつたから働けた」という思いがずっと自分の中にあった。32歳の時、人材派遣会社の求人広告をたまたま見て、応募

恵まれていた専業主婦生活から一転、再就職の壁

